正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Sínce 2020

第281回

エレン・ジョンソン・サーリーフ

の名言

発 行:入試広報室

発行日:令和3年11月22日

編集委員:入試広報室 鈴木



今回の言葉

If your dreams do not scare you, they are not big enough.

あなたを怖じ気づかせるくらいの夢でなければ、

大きな夢とは言えないよ。

エレン・ジョンソン・サーリーフはリベリア共和国の政治家。同国の大統領を2期12年に渡り務めた。選挙で選出されたアフリカ初の女性大統領であり、アフリカの女性国家元首としては、ギニアビサウのカルメン・ペレイラ大統領代理に続いて二人目である。「鉄の女」とも呼ばれている。

Column

夢とは、目標として考えている人もいると思います。大きな夢とは大きな目標ということですから『達成できるだろうか…』という不安も当然あるでしょう。人それぞれ能力も思い描く理想の将来も違う中で、あくまで"自分の心が震えたからこの夢を持ったんだ!"と、スケールに関係なく自信を持っていいんだというメッセージに感じました。そして、自分の夢や目標設定に対して不安に思っている人に対しても、目安のひとつとして今回の言葉に背中を押してもらえる人もいると思います。そういう意味で今回の言葉には大きな"愛"を感じました。

私が中学生の頃、それぞれが自分の目標を発表する時間があり、私が発表した目標に対して『そんなの絶対無理』と 笑い事のように否定された経験がありました。それがこのコラムでも何度か述べている"ドリームキラー"に初めて遭 遇した瞬間で、非常にショックで悔しい出来事でした。だからこそ『絶対に達成してやる!』というガッツも生まれました。しかし、同じくらい『達成できなかったら笑いものだ…』という不安に何度も襲われました。そして何度も『もう笑いものでいいや…』と諦めかけました。それでも何度となく気持ちを入れ直して挑戦を続けることができたのは、最初に"これが自分の夢だ!"と実感した瞬間の高揚感が忘れられなかったからです。だからこそ実現した時の喜びは非常に大きいものでした。ただ、当時の私を笑った人たちを"見返した"という気持ちにはなりませんでした。むしろ、"あの言葉があったから頑張ることができた"という感謝の気持ちが生まれました。当時はそこまでの感情しかなかったんですが、今になって考えてみると『夢中だったんだ』という事に気づきました。誰かに対してどうということではなく、本当に自分の掲げた目標をなんとしてでも達成するという気持ちの中で何度も葛藤し、もがきながら過ごしていたんだと思いました。自分にだけは嘘をつけません。本気でやりたいことには安易な妥協も諦めることも最初からできないのかもしれません。プレない心を持ち、その心が恐れるくらいの目標となるものに出会えたその瞬間から既にラッキーなのかもしれません。みなさんには夢中になれるものがありますか?